

絵本の原画を展示する美術館 えほんミュージアム清里

えほんミュージアム清里は、子どもから大人まで親しみのある、「絵本」に関連する作品や資料を展示する美術館。企画展、常設展で、主に絵本の原画を展示します。

■企画展

あるテーマにそって選んだ作品を展示します。えほんミュージアム清里では、ひとりの絵本作家や、ひとつの絵本をテーマに、その絵本の原画や資料を展示します。期間を決めて開催します。

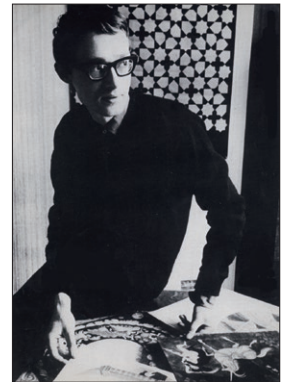
右：絵本作家村上康成さんの作品を展示する企画展「村上康成絵本原画展」(2023年7月8日～9月18日)のチラシ



■常設展

美術館が持っている（所蔵している）作品を展示します。えほんミュージアム清里では、絵本作家、エロール・ル・カインの絵本原画や資料を展示します。展示作品は定期的に変わりますが、常設展で展示する作品は、すべてエロール・ル・カインのものです。

エロール・ル・カイン（写真右／撮影 Jerry Bauer）



1941年シンガポール生まれ。56年、15歳の時に単身でイギリスに渡る。68年『アーサー王の剣』を出版し、絵本作家としての第一歩を踏み出す。85年『ハイワサのちいさかったころ』でケイト・グリーンウェイ賞を受賞。名実ともにイギリスを代表する絵本作家となる。89年、癌のため47歳で死去。主な作品に『いばらひめ』『おどる12人のおひめさま』『美女と野獣』など。



エロール・ル・カインが描いた絵本より。左から『キューピッドとプシケー』、「グランマ」、『ハイワサのちいさかったころ』。Cupid and Psyche © 1977 Errol Le Cain / "Grandma" © 1976 Errol Le Cain / Hiawatha's Childhood © 1984 Errol Le Cain

絵本美術館 おすすめの楽しみ方

えほんミュージアム清里を例に、絵本美術館のおすすめの楽しみ方を紹介します。絵を見るだけでなく、ほかにもいろんなことを楽しみながらゆっくりと過ごそう。

●絵本の原画を見よう!



絵本の原画は、絵本を作るために描かれた、実際に絵本に使われた絵のこと。絵のなかに文字が配置されて、印刷されて、綴（と）じられて本になりますが、額に入れられた原画を見ると、絵本と違う印象で、一枚の絵として見て楽しむことができます。

色の細かな濃淡など、印刷では原画をそのまま再現できないことがあります。そう考えると、作者がイメージした色がいちばん現れているのが原画だと言うことができます。筆の勢いやタッチ、絵の迫力などを見て感じられるのも原画ならではの特徴です。

壁にかけられた原画の横には「キャプション」があります。キャプションには、絵本の名前や出版された年などの説明とっしょに、絵本の文が書かれています。キャプションを読みながら原画を見ると、「原画で絵本を読む」といったほかではできない体験ができます。

原画のほかにも、作者がどんな絵にしようか考えながら描いたスケッチや、紙を綴じて試しに自分で作った絵本など、絵本を作るときにどんなことをしているのかを見ることができる資料の展示もあります（資料の展示は、展覧会によって内容が変わります）。

●えほんカフェでひと休み

館内には、絵本を自由に読める「えほんカフェ」もあります。展示を見たあとは、イスに座って好きな絵本を読んでゆっくりしよう。



●ミュージアムショップでお気に入りを探そう

ミュージアムショップには、おすすめの絵本、絵本のポストカードやクリアファイルなどが並んでいます。美術館に来た記念やお土産にどうぞ。



●緑の草地を散歩しよう!

館内を楽しんだ後は外へ。花が咲く小道を通過して、広々とした草地を散歩しよう。草や葉も、いつもと違った見方をすると発見があるかも。



えほんミュージアム清里 山梨県北杜市高根町清里 3545-6079 ☎0551-48-2220 www.ehonmuseum.com